













「いろはちゃん!ちよつと落ち着いて!」

「うるさいでござる!
お前のせいでこんなちんちん生えちゃったんだぞ!
反省しろ!」

「だ、だって、
あの薬にそんな副作用が出るなんて思わなくてえッ!」

「言い訳はいいから、こんごのおまんこで
この熱いのを責任持って鎮めるでござるッ!」



「おおおッ♡
これ凄いでござるッ♡
これが女の子の穴♡」

「ひぐうッ!! あッ♡
入って、太いのが奥まで
入ってきちやっただあッ!!」

♡=っ

バチュンッ
バチュンッ



「あッ♡ ああッ♡
腰振るの止まんないッ♡」

「ほおおッ♡
やめてええッ♡」

「こんなに気持ちいいなんて聞いてないでござるッ♡
あはッ♡ はあッ♡ こんなこよまんこ気持ちよすぎいい♡」

バチュン
バチュン



「んふっ♡クルッ♡
出るでぎゅるッ♡」

「え!! 嘘ッ!!
やめて!!」

反省してるから膣内出しだけはあッ!!」

「知るかッ♡こんこんの作ったちんこが
中に出せッ♡て暴れてるでぎゅるうッ♡」

バチュッ
バチュッ





「ハア…ハア…♡
こんごよのおまんこ気に入ったでござる…♡」

「んおお…♡
いろはちゃん…もう許してえ…♡」

♡ん♡ん♡ん♡